

神奈川県南足柄市岩原および沼田地区の取り組み紹介

-広域防災力強化をベースにした地区防災計画の立案に向けて-

平成30年11月5日 沼田地区自治会長 岩原地区自治会長

南足柄市の地域特性



位置

自然環境

地形

経済・産業

どんな町

神奈川県西部に位置し、南は小田原市と箱根町、西は静岡県に接する人口42,000人の都市 7割が森林、湧水は30か所以上

市内を流れる狩川(酒匂川の支流の1つ)に向かって扇状地が広がる

かつての富士フイルムの企業城下町、現在はアサヒビールが進出

"ちょっと田舎で ちょっと都会"なライフスタイルを送れる町





出典)google, ZENRIN日本

南足柄市はこんなところです













最乗寺錦秋の門

岩原・沼田地区 取組みの経緯



地区選定の経緯 【広域防災の観点】

小田原市に隣接しており、小田原市や真鶴町などに津波被害が生じた場合、被災地と支援地域や支援組織をつなぐ役割を担う可能性が高い地域である。

小田原市の被害想定)最大津波高11.9m/最大波到達時間3分 真鶴町の被害想定)最大津波高16.5m/最大波到達時間3分

● 地域の課題

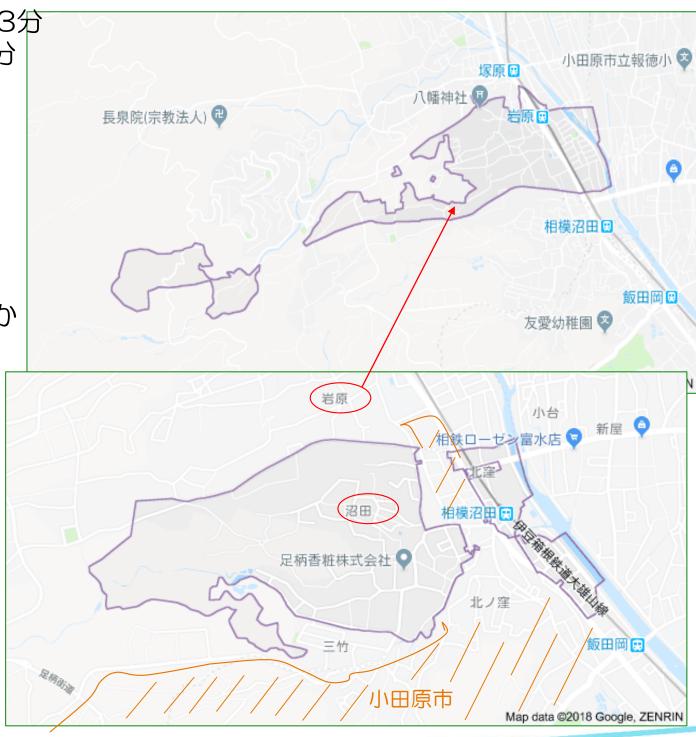
- (1) 地域内の関係性に変化
- ・自治会への参加率が低下しているため地区行事も 減少し、住民同士の繋がりが薄れている
- 自治会に加入しない人が増え、誰がどこに住んでいるのか 地域として把握できない
- 一人暮らしのお年寄りが高齢により外出しなくなり孤立

(2)住民の防災への問題意識が低い

・災害は今までも発生していないからこの地区は大丈夫、 という正常性バイアスがかかっている人が多い

地区防災計画策定への第一歩として

- ①防災を通じて地域のコミュニケーションの大切さに 気づいてもらう
- ②防災への意識を高める



ワークショップの実施



- 実施目的:住民の防災意識の向上
 - ① いざという時の自助、共助の大切さを知る
 - ② 日ごろの地域のコミュニケーションが重要であることに気づく
 - ③ 災害は点ではなく面で起こることから、隣接している岩原・沼田地区合同での実施により、自治会の枠を超えて災害に備えることの大切さに気づく
- 実施日時:9月2日(日) ①9:40~(自治会) ②11:00~(中学生) 指定避難場所の岩原小学校体育館にて避難訓練の一部として実施
- 参加者:岩原地区と沼田地区の自治会組長および中学生

● 実施内容:防災ゲーム「ダイレクトロード 海辺の町」

<地区別参加者数>

	岩原	沼田	合計
自治会	54	36	90
中学生	95	44	139
地区計	149	80	229

補) ダイレクトロード参加者の感想



自助・共助・コミュニケーション

- ・自助・共助の大切さがよくわかった
- 協力体制の構築が必要
- あまり話したことがない人と共助するの は困難であることがわかった。日ごろの 地域との交流が必要。
- ・災害時は情報の共有をしないと、 助かる命も助からないと知った

災害への備え

- 地域の情報を事前に頭の中にインプットしておくことが重要
- ・地域での防災の備えが大切だと感じた
- 明日にも災害が起こるかもしれないのに、 災害に対する知識が少ないということが わかった

気づき 感想

課題意識

- 周りの人がよくわからない
- お年寄りが多いので、救助活動が上手くいくのだろうか
- 自治会内の介護者の救出は、あらかじめ決めておいた方がいいと思う
- 本気になれない。心構え、意識の問題。

地区で向き合う防災



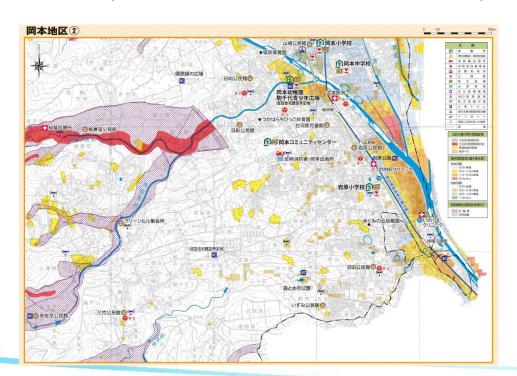
- ダイレクトロードからの気づき・課題
 - わが町の状況をあまり知らない(防災対策上)
 - ・防災の重要性はわかっているが、災害未経験者が多く自分事として捉えられない (他地区の災害でその恐ろしさを理解するものの、時間の経過とともに他人事になってしまう)

解決の方向性:

自分のまちを知り、過去の災害を学ぶことで「防災行動」につなげる

DIG (Disaster Imagination Game)の実施

- -まちの自然条件、構造(インフラ)、人(頼りになる人、配慮する人)をチームで洗い出す
- -相模トラフを想定した地震被害の確認
- -過去の災害で何が起きたのかを知る(富士山噴火、東日本大震災の河川津波など)



	岩原地区	沼田地区	
人口	3,990人	1,992人	
地形•地質	火山性丘陵と扇状地		
	• もともとは沼地や田んぼの土地が多い		
	・地区内に狩川が流れる		
町並み	一軒家が多い住宅地で、	高いビルはない	
特徴	・西側の山側地区は孤立の 助する立場	可能性あり、共	

DIGの実施状況



● 実施日:10/20(土)13:00~15:30

●参加者:岩原地区の組長を中心に60名

効果

- ・災害は他人事と思っていた人も、居住地域の地質・地形、過去起き た災害や災害時の被災予測の情報を把握したことにより、自分事と して考え始めるきっかけとなった
- ・対策に関して興味を持ち始めた

うちの近くに井戸が あったのか、知らな かった・・・



過去にそんな大変な 災害が起きていたの か・・・



長く住んでいる方は よくご存知よね、い ろいろ聞いてみよう かしら。

地区防災計画に向けた取組み



● 今後は、これまでの活動から見えてきた課題への対応策の検討を進め、行政との連携のもと 計画策定に取り組んでいきます

課題(1) 隣接する地区との連携強化

• 避難所単位

DIG実施により岩原・沼田は市内隣接自治会を共助する立場であることがわかった。岩原小学校(避難場所)に避難する対象地区(岩原・沼田のほか4地区)と連携した防災対策を検討することで、より現実的かつ組織的な防災行動へつなげる

・隣接する市町村の受援体制づくり 住民意識において、被災住民や支援組織を受け入れることへのマインド形成や意識の向上を念頭に置いて防災対策を検討する

~3月

年内

課題(2) 防災を通じた地区コミュニケーションの継続と定着化

・防災は自治会内および自治会横断の共通課題として、地域のコミュニケーション活性にも役立つ。 毎年の自治会役員の交代に左右されない、継続して実施できる体制の検討を進める

課題(3) 行政との連携

3月~

• 行政との連携を強化し、防災計画を策定する